

日記 第一部

〔昭和二〇年四月一日〜昭和二〇年八月二五日〕

四月の月頭のことば

決戦の春は遂に訪れてきた。今年こそ総反攻の年であり、又、終にはこの大東亜戦争の勝敗の決定する年である。僕は此処に都立九中の三学年に進級した。今年が我が国総反攻の年であるようにこの三学年こそ僕の学問の総反攻の年でもある。益々学問に精励して過去二年間の学問を身につけこれを応用して、きつと立派な九中健児となるように努力する。何事も事の始めは大切なものである。即ち三学年の始めの月、四月がこの三年間の最も大切な月なのである。故に僕はこの年の始めの四月を最も計画的に且つ、有効に使わねばならぬ。

四月一日(日)晴れ、午後より風起こる

今日は新学期の始めの日が生憎日曜日に当たっている。今朝は曇りがちで霧の多い朝であった。離れにおいて午前中は国民掌典を読む。中々面白い文章あり。今日の学びし学科は幾何であるが、何だか余り頭に入らなかったので途中で止めた。

午前九時頃、父、銀行より帰宅なさる。